

「日本における新型コロナウイルス感染症流行時の社会的接触パターンについて」

2022年6月1日

中村友香（London School of Hygiene and Tropical Medicine・長崎大学）、鈴木基（国立感染症研究所）、有吉紅也（長崎大学）

主なポイント

- 2021年2月から2022年3月の期間に大阪府と福岡県の住民を対象として社会的接触調査（コンタクトサーベイ）を実施し、1人あたりの接触人数（1日平均）の推移を検討した。
- 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行後（2021年と2022年）は、1人あたりの接触人数は8.1人（平日）、5.9人（週末）であった。これは流行前（2011年）に実施された同様の調査の16.3人（平日）、12.8人（週末）と比べて減少していた。この減少傾向は、平日、週末を問わず、すべての年齢層で見られた。
- 流行期間中、20代における接触人数については他世代よりも大きな変動が観察され、2021年12月に明らかな増加が見られた。
- 2022年3月時点の接触人数は流行前の水準には戻っていないが、比較的若い世代（10代から30代）の接触人数については平日、週末ともに1年前の2021年3月と比較して増加傾向が見られる。

社会的接触調査（コンタクトサーベイ）について

2021年2月から2022年3月にかけて、大阪府と福岡県在住者を対象として社会的接触調査（コンタクトサーベイ）を実施した。1回につき約1500人から1700人を対象とし、合計8回の調査を行った。2021年2月に大阪府と福岡県を含めた地域で緊急事態宣言が発令された直後に1回目の調査を行い、2回目は緊急事態宣言が解除された3月に行った。3回目の調査はゴールデンウィーク明けで、デルタ株が流行し始めた同年5月に行った。デルタ株の流行のピークが過ぎた後、同年11月に4回目、12月に5回目の調査を行った。その後、2022年1月からオミクロン株を主体とする流行拡大が起これ、まん延防止等重点措置を適応する地域に大阪府と福岡県が含まれることになっ

た。オミクロン株の流行の始めとピークを含む 2022 年 1 月から 3 月に毎月 1 回調査を実施した（6-8 回目）。

本調査における接触の定義は「体と体が触れ合わないような接触」（他の人と直接対面して、3 文以上お互いに会話をする（マスクの有無問わず））、あるいは「体と体が触れ合うような接触」（例：握手、ハグ・抱き合う・抱っこ、キス、コンタクトスポーツ（柔道、合気道、レスリングなど）、同じ布団で寝る）である。これは英国で実施されている CoMix 調査の定義と同様である[1]。比較対象として COVID-19 流行前に国内で実施された調査の結果を用いたが、そこでの接触の定義は「2 メートル以内の距離で対面して会話をする」[2]である。本報告では 1 人あたりの 1 日平均接触人数を平日と週末に分けて算出した。

結果

COVID-19 流行開始後（2021 年と 2022 年）の期間では、1 日平均接触人数には明らかな変化は見られなかったが、流行前[2]と比較すると接触人数は減少していた。COVID-19 流行後（2021 年と 2022 年）では、接触人数は 8.1 人（平日）、5.9 人（週末）であったが、流行前では 16.3 人（平日）、12.8 人（週末）であった。この減少パターンは、平日、週末を問わず、すべての年齢層で見られた。

図 1 は平日における年齢区分別の 1 日平均接触人数、図 2 は週末における年齢区分別の 1 日平均接触人数を示す。

図1 新型コロナウイルス感染症流行前(2011年)と流行時(2021年2月—2022年3月)を比較した平日における年齢区別の1日平均接触人数

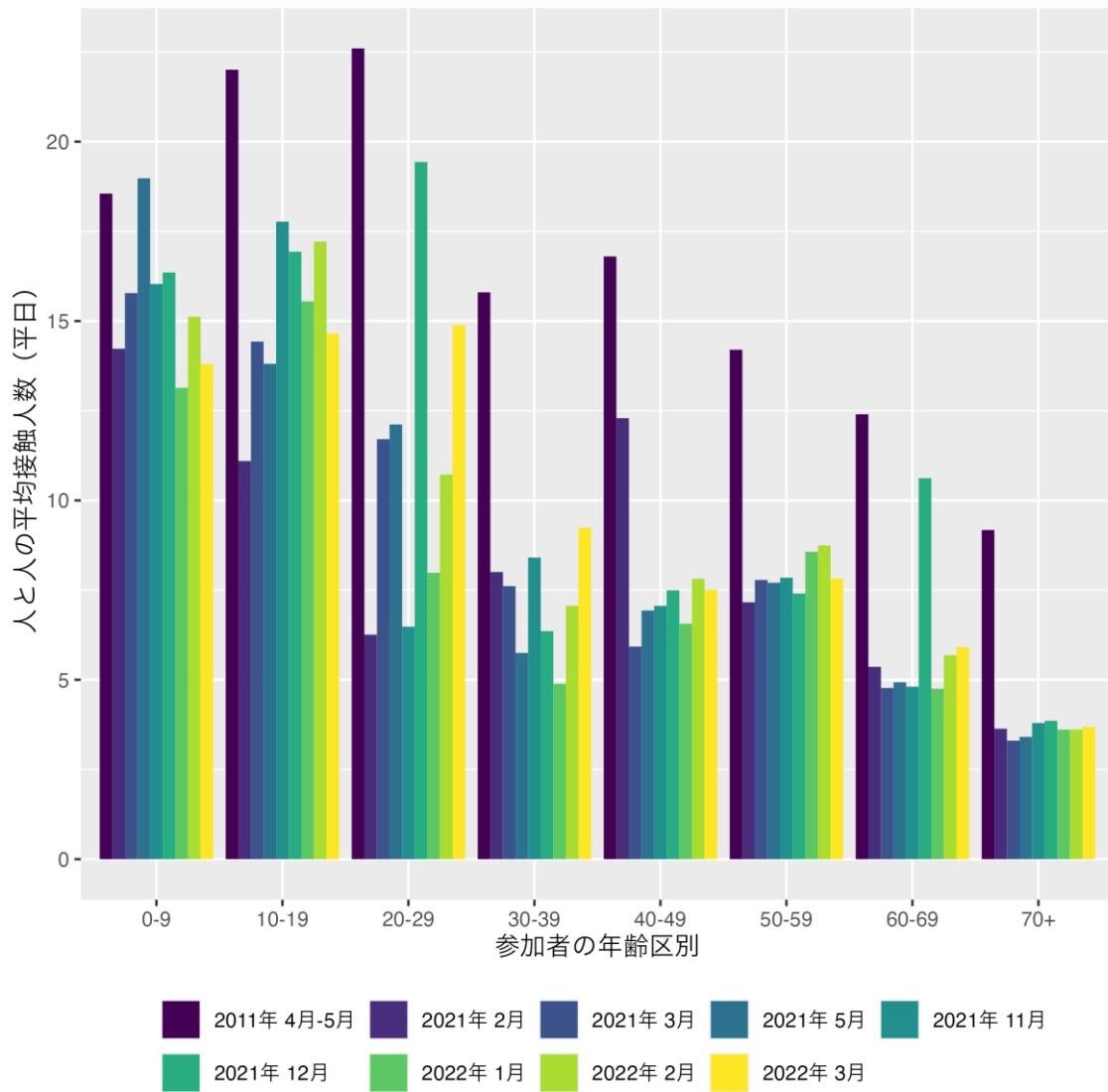
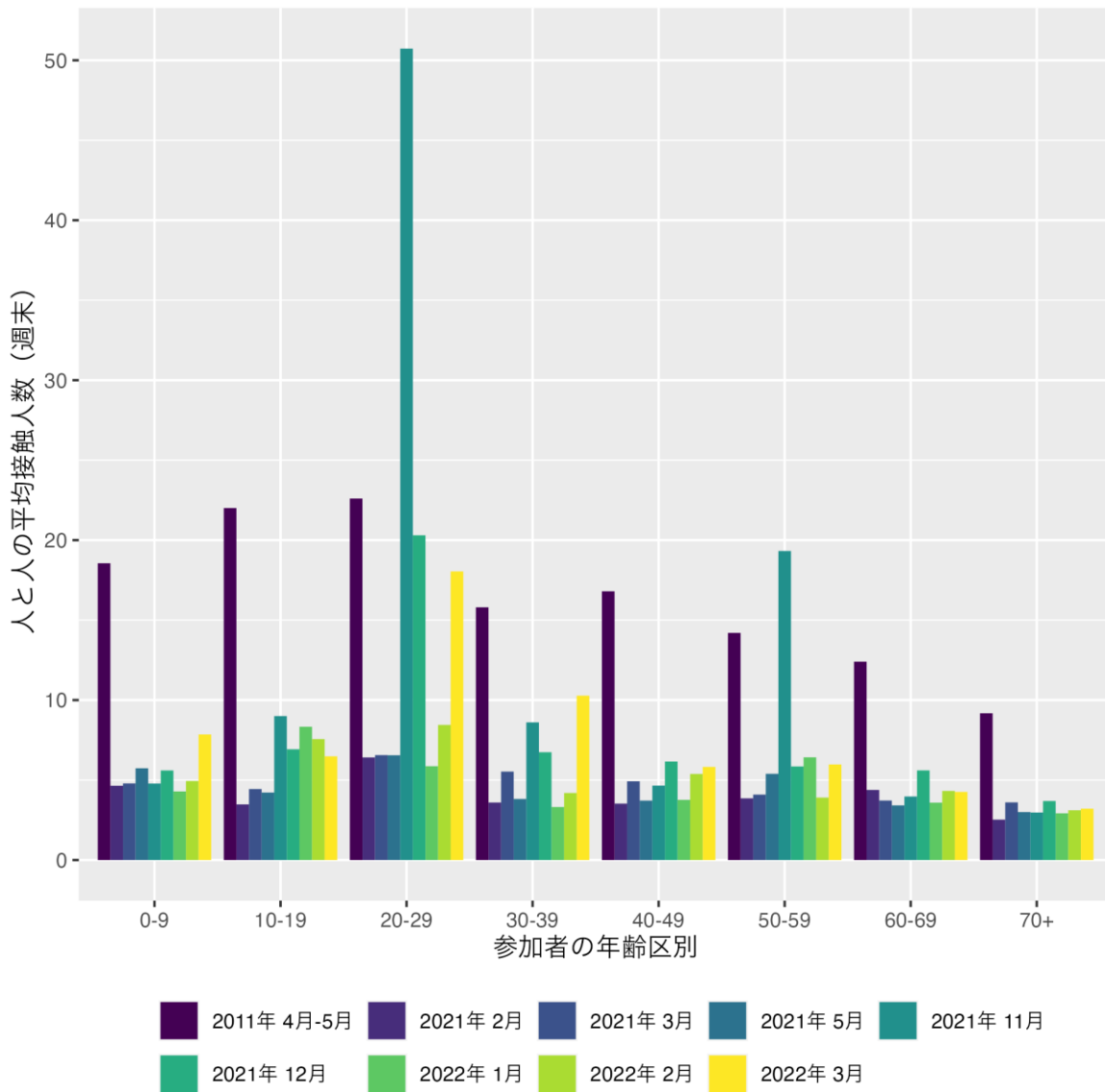


図2 新型コロナウイルス感染症流行前(2011年)と流行時(2021年2月—2022年3月)を比較した週末における年齢区別の人と人の1日平均接触人数



COVID-19 流行前と比較すると、2021年2月から2022年3月にかけて全ての年齢区分で接触人数が減少していた。いくつかの外れ値を除くと、特に50代から70代以上の接触人数は平日、週末ともに比較的一定であった。そして、週末の接触人数をみると、全ての年齢層で流行前に比べて人との接触を控えている可能性が示唆された。

20代の接触人数は、他世代に比べて変動が大きく、特に2021年12月に増加が見られた。忘年会や年末年始の実家への帰省等により、人と接触する機会が増えた可能性がある。2022年3月時点の接触人数は流行前の水準に戻っていないが、比較的若い世代（10代から30代）については一年前と比較して接触人数が増加していることが示唆された。

本報告は調査結果の暫定的なまとめである。COVID-19流行前に実施された調査[2]と本調査における接触の定義は厳密には異なることから、結果の解釈に際しては注意を要する。また本報告においては、接触時間、接触場所の変化については検討していない。

*本調査は「新型コロナウイルス感染症等の感染症サーベイランス体制の抜本的拡充に向けた人材育成と感染症疫学的手法の開発研究」（厚生労働科学研究）分担研究のひとつとして実施された。

参考文献

1. CMMID: Social contacts in the UK from the CoMix social contact survey.
<https://www.gov.uk/government/publications/cmmid-social-contacts-in-the-uk-from-the-comix-social-contact-survey>
2. Ibuka Y, Ohkusa Y, Sugawara T, et al. Social contacts, vaccination decisions and influenza in Japan. *J Epidemiol Community Health*. 2016;70(2):162-167.
doi:10.1136/jech-2015-205777